

農林中央金庫 (2021 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2022 年 6 月 10 日

担当者：

Kosuke Kanematsu, kosuke.kanematsu@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2277

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7394

Ayaka Okumura, ayaka.okumura@sustainalytics.com

はじめに

2021 年 9 月、農林中央金庫（以下、「農中」）は再生可能エネルギーを含む、環境改善効果の創出が期待されるプロジェクトへのファイナンス及び／又はリファイナンスを目的とする二つのグリーンボンド（5 年債 500 百万米ドル、10 年債 500 百万米ドル、以下「2021 年グリーンボンド」）を発行し、その調達資金を 2022 年 3 月 31 日時点で合計 11 件の再生可能エネルギーに係るプロジェクトに充当しました。2022 年 6 月、農中はサステナビリティクスに 2021 年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが農林中央金庫グリーンボンドフレームワーク（以下、「フレームワーク」）¹ で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについて評価を委託しました。

評価基準

サステナビリティクスは、以下の要件について、2022 年 3 月 31 日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途のカテゴリーに対する適格クライテリア及び関連するインパクト指標を表 1 に示します。

表 1：調達資金の使途、適格クライテリア及びインパクト指標

調達資金の使途	適格クライテリア	インパクト指標
再生可能エネルギー	再生可能エネルギープロジェクト（発電・送電）への融資または借換えのための資金で、1kwh 当たり 100g 以下の CO ₂ 排出量の閾値を下回るもの： a. 太陽光、太陽熱、風力（陸上および洋上）、地熱発電資産の建設、保守及び／又は運用 b. 資源保全・管理について適切な認証を得た森林由来のバージンウッド（チップ及びペレット）を利用したバイオマス発電プラントの建設、維持及び／又は運営	以下にリストした情報を含む、簡潔な記述と期待される影響の測定指標（二酸化炭素換算トン単位での GHG 排出回避量を含む）を備えた適格資産のリスト <ul style="list-style-type: none"> • サブセクター別・立地別分布 • プラントの発電能力 • 秘密保持・顧客の事前同意を前提として、プロジェクト一例のハイレベルな記述 • 実行可能な範囲内で、推定されるプラスの環境影響を定量的に集計評価したもの

¹ 農林中央金庫グリーンボンドフレームワークは、こちらよりご覧頂けます：

https://www.nochubank.or.jp/en/news_release/uploads/2021/Green_Bond_Framework%20_In%20Japanese.pdf

		• KPI の例: 二酸化炭素排出削減推定量、及び融資の割合等
--	--	---------------------------------

発行体の責任

農中は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、農中の 2021 年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、農中の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して農中から提示された情報と事実に依拠しています。農中が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果²、すべての重要な側面において、農中の 2021 年グリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。農中は、サステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が 2022 年 3 月 31 日時点で全額充当されたことを開示しました。

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

調査結果の詳細

表 2：調査結果の詳細

評価基準	調査手順	調査結果	特定された過失 または例外
資金使途クライテリア	2022年3月31日時点で2021年グリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワーク及び上の表1に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティングクライテリア	2022年3月31日時点で2021年グリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワーク及び上の表1に示されているインパクト指標と適合する形で報告されたかを検証。報告されたインパクト指標の一覧は参考資料1を参照。	審査したすべてのプロジェクトにおいて、フレームワークで設定された各資金使途クライテリアに対するインパクト指標が報告されていました。	該当なし

参考資料

参考資料 1：インパクト・レポートと調達資金の充当状況

1. 2021 年グリーンボンド（5 年債 500 百万米ドル）

プロジェクト カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェ クト数	インパクト指標 ³		融資残高 (百万米ドル) ⁴
			CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年)	CO ₂ 排出削減量の 合計の内、 農中に帰属するもの (t-CO ₂ /年)	
再生可能 エネルギー	風力 ⁵	5	3,432,709	186,823	300
再生可能 エネルギー	太陽光 ⁶	4	146,872	55,057	220
合計		9	3,579,581	241,880	520

グリーンボンド発行による調達資金の手取り金合計：	500
調達資金の未充当額合計：	0

³ 農中によるインパクトレポートは、こちらよりご覧頂けます：

https://www.nochubank.or.jp/en/ir/fixed_income_information/green_bond_information/

⁴ 融資残高は、百万米ドル未満を四捨五入して表示しています。記載額は 2022 年 3 月 31 日時点の為替レートにて米ドル換算した値となっております。

⁵ サステナリティクスは、該当充当プロジェクトがフレームワークで定めた CO₂ 排出量の閾値（1kwh 当たり 100g 以下）を下回り、除外クライテリアに遵守していることを確認しました。

⁶ サステナリティクスは、該当充当プロジェクトがフレームワークで定めた CO₂ 排出量の閾値（1kwh 当たり 100g 以下）を下回り、除外クライテリアに遵守していることを確認しました。

2. 2021年グリーンボンド（10年債500百万米ドル）

プロジェクト カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェ クト数	インパクト指標 ⁷		融資残高 (百万米ドル) ⁸
			CO ₂ 排出削減量 (t-CO ₂ /年)	CO ₂ 排出削減量の 合計の内、 農中に帰属するもの (t-CO ₂ /年)	
再生可能 エネルギー	風力 ⁹	2	1,463,922	77,347	502
合計		2	1,463,922	77,347	502

グリーンボンド発行による調達資金の手取り金合計：	500
調達資金の未充当額合計：	0

⁷ 農中によるインパクトレポーティングは、こちらよりご覧頂けます：

https://www.nochubank.or.jp/en/ir/fixed_income_information/green_bond_information/

⁸ 融資残高は、百万米ドル未満を四捨五入して表示しています。記載額は2022年3月31日時点の為替レートにて米ドル換算した値となっております。

⁹ サステナリティクスは、該当充当プロジェクトがフレームワークで定めたCO₂排出量の閾値（1kwh 当たり 100g 以下）を下回り、除外クライテリアに遵守していることを確認しました。

免責事項

© Sustainalytics 2022 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステイナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介業者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達の検討を支援しています。サステイナリティクスは、世界 17 カ所にオフィスを構え、40 以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ 500 人以上のアナリストを含む、1500 人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

又は、contact@sustainalytics.com にご連絡ください。

